

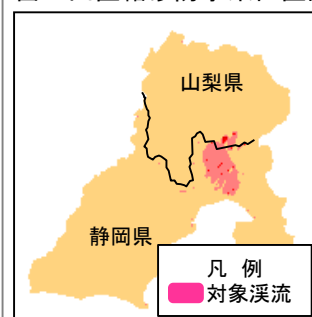
富士山における着実な砂防施設整備による防災効果

～令和元年台風19号と昭和54年台風20号の比較から～

○富士山における直轄砂防事業をS44年度から実施しているところ。
 ○S54年10月18日～19日に台風20号により、富士山御中道観測所※では総雨量で456mm、時間最大69mmを観測。潤井川では土砂・洪水氾濫により、護岸・橋梁・道路等の被災が多数発生。
 ○一方、10月11日～12日に富士山に接近した台風19号により、御中道観測所※では総雨量で527mm、時間最大では43mmを観測。富士市・富士宮市における被害は大幅に減少した。
 ○富士砂防事務所では、S54以降に67基の砂防施設が完成しており、被害軽減に寄与したものと推定。
 ○台風19号の時間雨量は比較的少なかった事を踏まえ、**引き続き、着実に砂防施設の整備を進める事が重要。**

※富士砂防事務所雨量観測所

富士山直轄砂防事業位置図



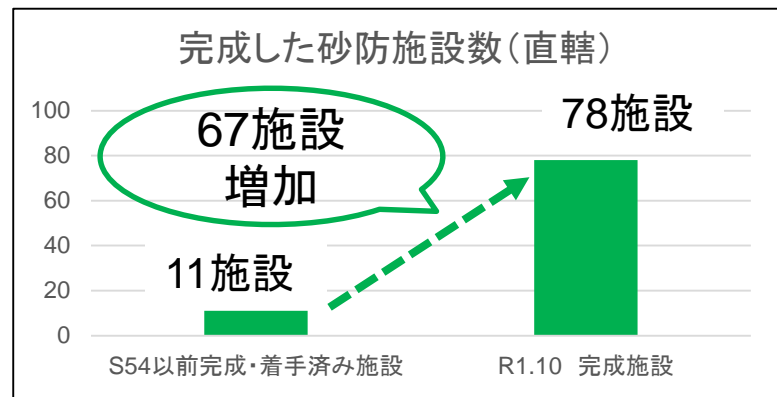
昭和54年10月19日 台風20号による被災状況



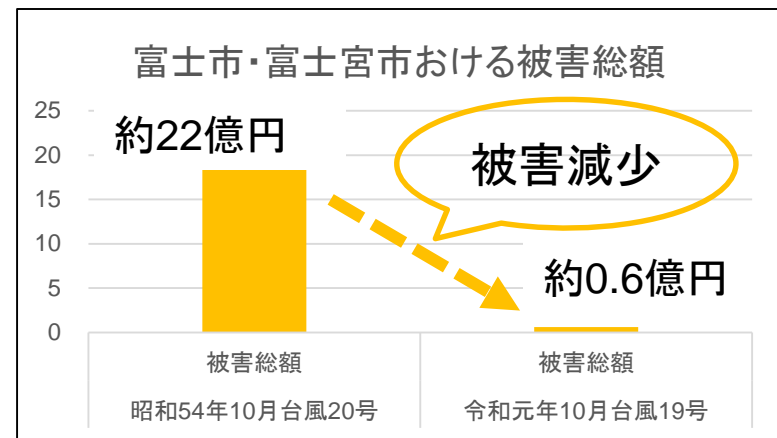
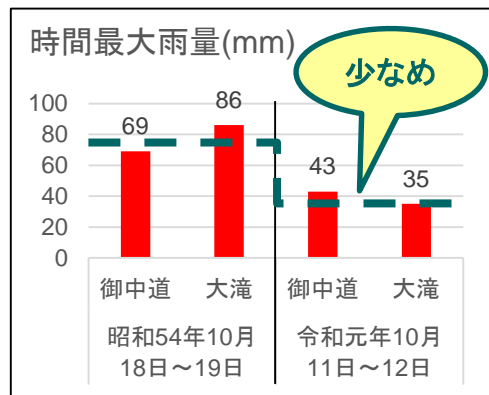
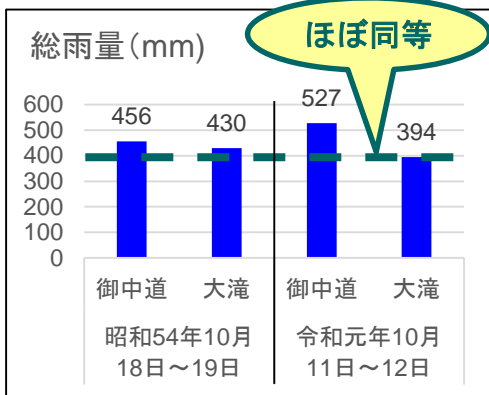
富士市天間地区



富士市天間地区の被災状況



降雨状況の比較



※被害総額は静岡県の集計値。
 令和元年台風19号の被害総額は12月現在における暫定値から抽出した額